

西洋館に漂う和の雅 「初秋 和洋折衷の美」

すすきが揺れる中秋の名月の夜。
月光に照らされてほのかに香る菊の花々が、空間に優雅な時を流します。
繊細な和の感性と重厚な西洋建築が織りなす空間で、日本の伝統工芸
漆芸の名匠、村瀬治平衛氏の作品が静かに存在感を放つ…
時代も文化も越えて調和する、美しき秋のひとときを演出。

期間：10月3日(金)～10月7日(火)

装飾：佐藤由美子(空間デザインスタジオ Stråle 主宰)

協賛：「日本の伝統工芸」村瀬治平衛

嘉門工藝

清水敏男



木地師としては七代目。祖父の代に北大路呂山人との親交を通じて、塗りまでを一貫して行う現在のスタイルとなりました。しっかりとした木地の吟味と、熟練した手業による素朴で研ぎ澄まされた造形、木目を活かした奥行きのある塗りの表情。茶器を中心とした作品制作は、現代的エッセンスを加味した独自性のある世界を展開しています。



嘉門工藝は、漆芸家・村瀬治平衛の漆器作品、用に即した質の高い茶道具を制作。自宅での茶会を70年以上続ける経験を活かした開発力と、技術力、素材の良さに定評があります。

清水 敏男 Toshio Shimizu

TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE 代表

アーティスティック・ディレクター

美術評論家

フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲

学習院女子大学名誉教授